



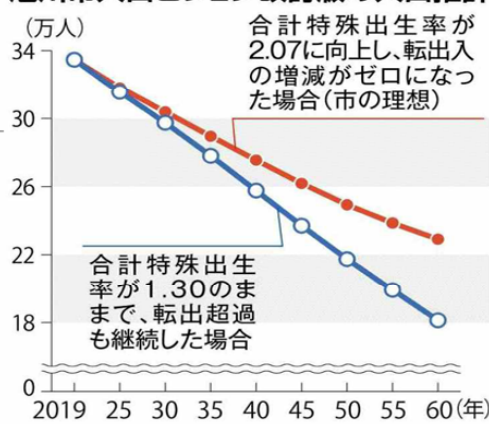
旭川市人口60年18万人

ビジョン改訂 1万人下方修正

旭川市は、市内の人口の将来展望を分析した人口ビジョンを5年ぶりに改訂した。女性が生涯に産む子どもの推定人数「合計特殊出生率」と、転出者数が転入者数を上回る「転出超過」が現状のままの場合、2060年の人口は18万1千人まで減ると推計した。どちらも改善されれば、22万9千人に抑えられると見込んでいる。

(小林史明)

旭川市人口ビジョン改訂版の人口推計



旭川市の人口は1日現在で33万2197人(住民基本台帳ベース)。ピークは1986年の36万5千人で、98年から減少の一途をたどっている。

旭川市の人口は1日現在で33万2197人(住民基本台帳ベース)。ピークは1986年の36万5千人で、98年から減少の一途をたどっている。

千人からさらに少なくなるの見込んだ。65歳以上が占める割合は15年に30・3%だったが、60年に48・7%に上昇し、深刻な労働力不足になる。



人口ビジョン 自治体が人口の現状を分析し、地域住民と将来展望を共有する推計データ。国は2015年度、人口ビジョンを基礎として5年ごとの人口減少対策の方向性を示す「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するよう各自治体に促した。全国の自治体は総合戦略をもとに各種事業を行い、国は地方創生交付金で財政支援する。国のビジョンは、60年の人口を「1億人維持」と掲げている。

人口ビジョン 自治体が人口の現状を分析し、地域住民と将来展望を共有する推計データ。国は2015年度、人口ビジョンを基礎として5年ごとの人口減少対策の方向性を示す「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するよう各自治体に促した。全国の自治体は総合戦略をもとに各種事業を行い、国は地方創生交付金で財政支援する。国のビジョンは、60年の人口を「1億人維持」と掲げている。

一方、市が人口ビジョンで理想とするのは、合計特殊出生率が人口維持に必要な2・07に上がり、転出入が増減ゼロになる場合で、22万9千人になると推計。前回の24万4千人からさらに減るものの、65歳以上が占める割合は60年は、37・4%に抑えられるとした。

人口ビジョンとともに、人口減少対策の方向性を示す「まち・ひと・しごと創生総合戦略」も改訂した。四つの目標として、①若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる②人の流れと、とどまれる中核拠点をつくる③道北を舞台に人や企業を応援し、雇用環境を充実④安心で魅力ある持続可能な拠点都市の形成を掲げた。

市は今後、総合戦略の目標実現に向け、具体的な事業を進める。本年度は、家事や育児の民間ヘルパーサービスを低額で利用できる「産前・産後ヘルパー事業」を開始し、今月にはシニア層に就業体験してもらう「トライアルワークセンター」を開設した。

市総合政策部は「事業は成果を検証、改善しながら、今後も実効性ある施策を考えたい」と話す。

総合戦略と人口ビジョンは、中長期的なまちづくりの方向性を示した「第8次旭川市総合計画」の考え方を基礎に置いて策定している。

2020年9月16日(水) 朝刊 旭川・上川 16P(記事は再編集しています)

① 今後の合計特殊出生率が1.30のまま、転出超過も465人を継続した場合、2060年の65歳以上の人口は何人になるか、計算しなさい。

人

② 旭川市の理想とするビジョンでも、大きく人口が減ります。人口維持が必要な合計特殊出生率でも、なぜ人口が減少するのか。若い世代に着目し、あなた自身の考えを書きなさい。

③ 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の目標のひとつである若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるために、旭川市は具体的な事業として「産前・産後ヘルパー事業」を開始しました。他にも、市としてどのような取り組みが考えられるか、その取り組みなら、なぜ若い世代の希望をかなえることができるのか、理由を明確にしてあなたの考えを説明しなさい。